

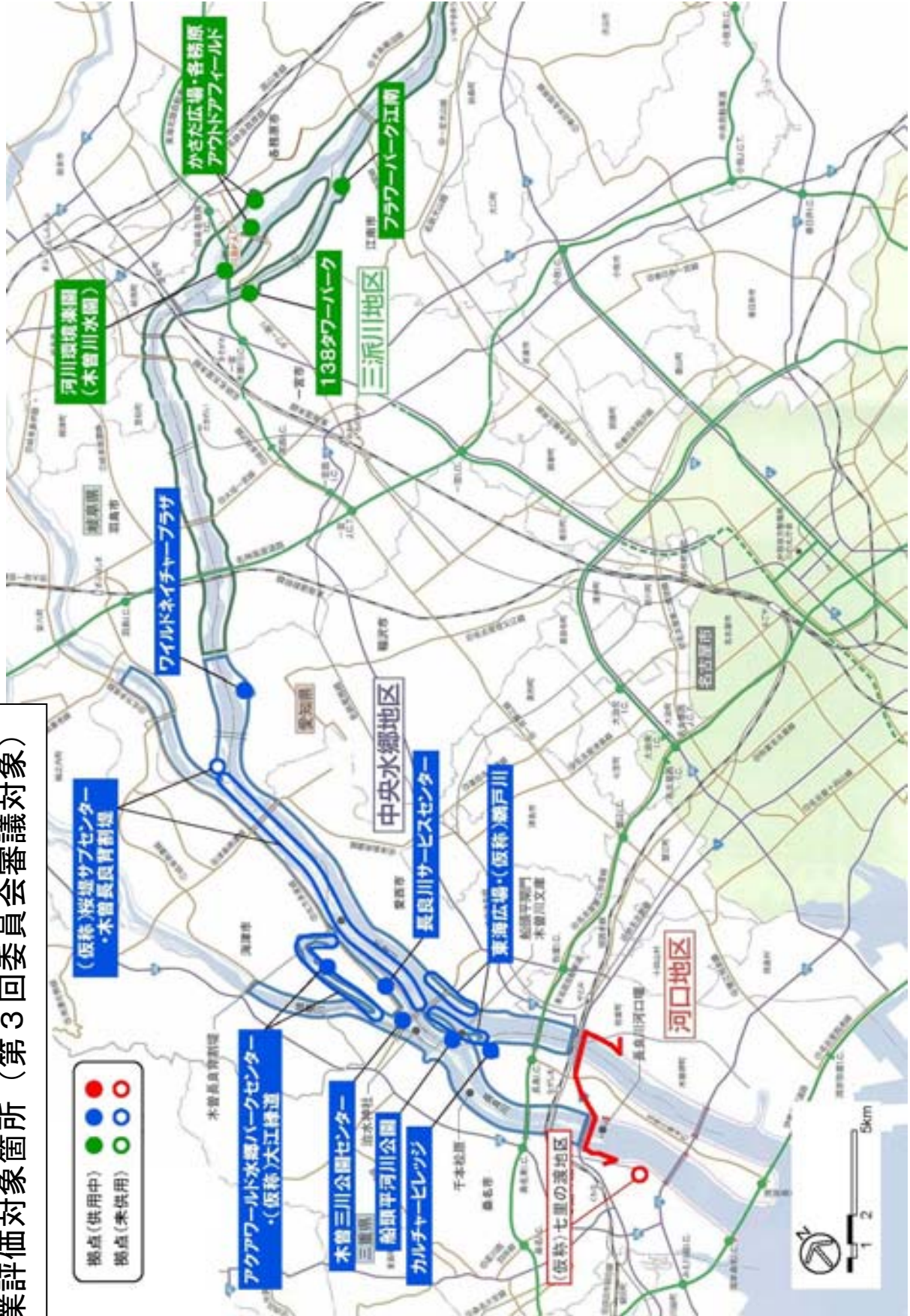
# 再 評 価 対 象

## 公 園 事 業 概 要

平成 2 0 年 1 2 月 1 6 日

国土交通省中部地方整備局  
木曾川上流河川事務所  
木曾川下流河川事務所

事業評価対象箇所（第3回委員会審議対象）



都市公園事業の再評価チェックリスト

公園名	国営木曾三川公園	種別	イ号国営公園	全体事業面積	707.7 ha	
事業の概要	国営木曾三川公園は、様々な自然環境、歴史文化を有する木曾三川の広大なオープンスペースを活かし東海地方の人々のレクリエーション需要の増大と多様化に応えることを主な目的として整備されており、計画区域は愛知県、岐阜県、三重県の三県にまたがり、総延長は107kmに及びます。木曾三川の治水百周年に当たる昭和62年に開園し、平成20年10月末現在には239.1haを供用中で、平成19年度には約890万人が利用しています。					
事業採択年度	昭和55年度	都市計画決定年度	【中央水郷地区】昭和56年度 【三派川地区】昭和62年度 【河口地区】平成19年度			
用地着手年度	昭和56年度	工事着手年度	昭和56年度			
1. 事業の必要性等						
1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化	利用圏域内の市街化状況、人口推移等、社会経済情勢の特段の変化				有	無
	公園計画区域及び周辺の自然的環境等の特段の変化				有	無
	重大な影響のある上位計画の変更				有	無
	重大な影響のある周辺の類似施設の整備状況の変化				有	無
	重大な影響のある関連する他事業等の進捗状況の変化				有	無
内 容						
河川法の改正、木曾川水系河川整備計画の改定（平成20年度3月28日）						
2) 事業の投資効果	費用対効果分析結果	B/C ( 8.36 )				
	総便益費 (B) (13,021) 億円 総費用 (C) (1,557) 億円 便益の主な根拠 誘致圏域 (100km) 誘致圏 (日帰り利用圏域) 人口 (964) 万人					
	費用対効果分析結果に影響を与える要因の変化					
3) 事業の進捗状況	計画全体事業費 (うち用地費)	822億円 204億円	投資事業費 (うち用地費)	*543億円 (進捗率66%) *128億円 (進捗率63%)		
	用地確保面積	52.0ha (用地確保率70%)	既供用区域面積	239.1ha (供用面積率34%)	供用開始年度	昭和62年度
	未供用の場合、その理由					
整備・計画中の区域については、全体のバランスを考慮しながら整備を行い、順次開園してきます。						
2. 事業の進捗の見込み						
今後の事業の進捗予定、目処及び進捗の見直し						
・供用区域の拡大に向け、現在、鋭意進捗しており、地元の公共団体等からの要望も寄せられている。						
3. コスト縮減や代替案立案等の可能性						
コスト縮減の検討・実施の状況	・剪定枝葉や刈草を園内で堆肥化 ・計画的な施設改修を実施 ・河川整備で発生する残土を公園の造成に利用					
代替案の検討状況	・代替案：河川事業など都市公園事業以外の事業、県営・市営公園など他の都市公園事業					

\* 数値は平成20年度末までの見込み値